

丸森町 地域公共交通計画

令和6年3月 丸森町

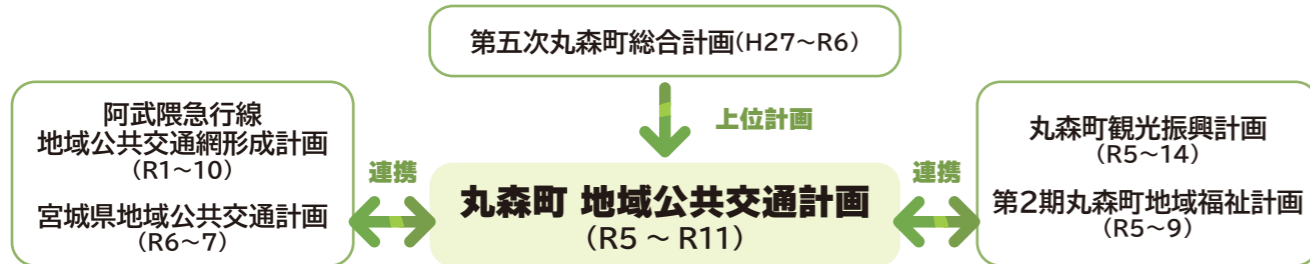


本町の地域公共交通は、すべての町民の移動手段として重要な役割を果たしている一方で、自家用車の普及や少子高齢化、人口減少に伴う地域公共交通の利用者数の減少、運行を担うドライバーの高齢化や慢性的な人手不足等により、安定的に地域公共交通を維持していくことが厳しい状況となっております。

将来にわたり、町民にとっての移動手段である地域公共交通を維持していくためには、運行を担う交通事業者の経営努力のみならず、行政、町民、団体、企業など、地域全体で利用促進を図るとともに課題を認識することが重要であり、そのため、地域の実情と地域公共交通の現状や課題を踏まえ、地域全体で取り組む持続可能な地域公共交通体系の構築に向けて、「丸森町地域公共交通計画」を策定します。

計画の位置づけ

本計画は、「第五次丸森町総合計画」を上位計画として、基本方針8「住み続けたいと思える快適で魅力的なまちづくり」の実現を目指します。また、関連計画として「丸森町観光振興計画」「第2期丸森町地域福祉計画」との整合や連携を図りながら、本町における地域公共交通の方向性とその具体的な施策を示すものであり、地域公共交通政策を推進するマスタープランとして位置づけます。



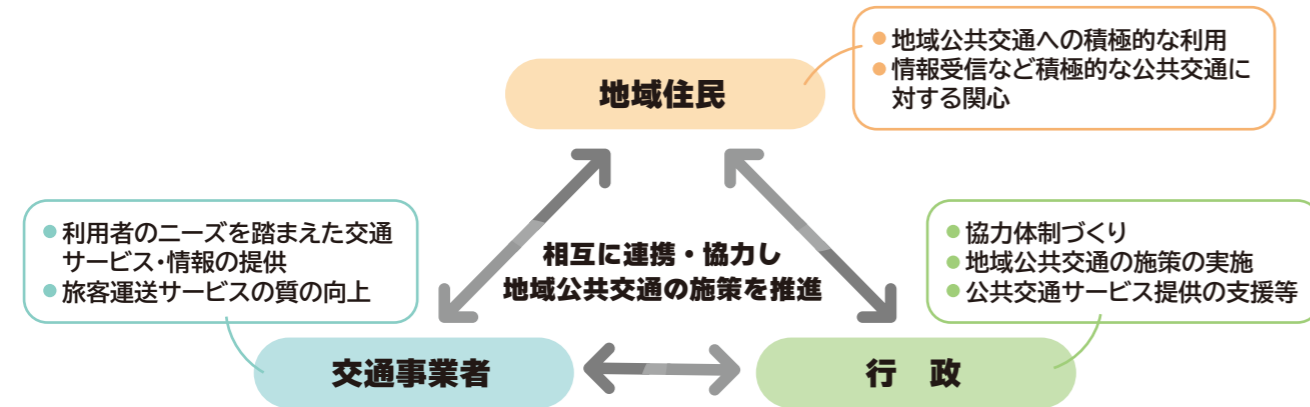
計画区域と期間

本計画の対象区域は丸森町全域とし、第五次丸森町総合計画や次期総合計画の前期期間との調整を図るため、令和5年度から令和11年度までの7年間を計画期間とします。

推進体制

本計画の目標達成に向けて、行政、地域住民、交通事業者及びその他関係機関が課題を共有し、相互に連携してそれぞれの役割を補完しながら、町民の生活を支える基盤として地域公共交通の各種事業を推進します。

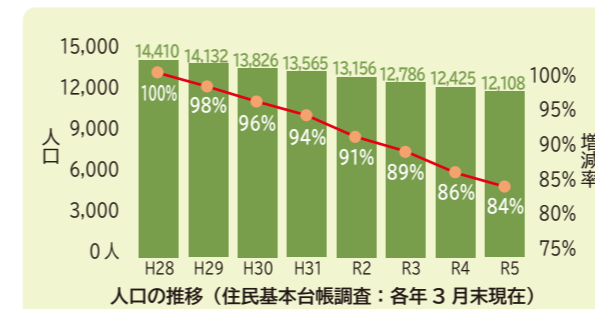
また、地域住民の代表や有識者で構成する丸森町地域公共交通会議において、本計画の進捗や各施策の目指すべき方向性について、適宜見直しを図りながら、計画を円滑に推進します。



地域の現状と特性

本町は宮城県最南端に位置し、阿武隈山脈の支脈で囲まれた盆地状の町です。

県内で2番目に高齢化が進んでおり、現状のまま推移すると、令和22年には総人口が10,000人を下回ることも見込まれております。



阿武隈ライン舟下りや蔵の郷土館 齋理屋敷をはじめ様々な観光地があり、近年は来訪者のニーズの多様化が見受けられます。



地域公共交通の現状

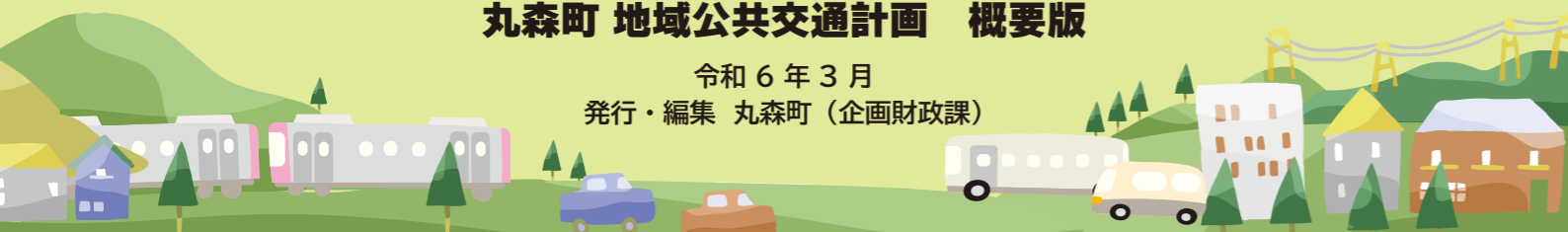
町民バス(6路線)や、白石市市民バス(2路線)、デマンド交通あし丸くん(5ルート)、阿武隈急行線、住民主体の地区内有償運送が運行していますが、人口減少に伴い、地域公共交通全体の利用者は減少傾向にあります。

さらに、交通事業者1社がすべての町民バスやデマンド交通あし丸くんの運行を担っている状況にあります。



丸森町 地域公共交通計画 概要版

令和6年3月
発行・編集 丸森町（企画財政課）



住民アンケートの調査結果

本計画の策定にあたり、日常生活における移動状況や住民が期待する地域公共交通の役割などを把握し、本町における地域公共交通の在り方の検討に向けた基礎資料とすることを目的に、令和5年9月に町内在住の15歳から89歳までを対象に住民アンケートを実施しました。

調査方法 郵送配布、郵送回収

回答票数 1,000票中473票（回収率47%）

通院について

通院先は町内が一番多く、次いで角田市、白石市であった。通院方法では自身で運転する自動車が一番多く、次いで送迎によるものとなっている。

日常的な交通手段について

自身での運転と送迎による移動が大半を占めていた。また、公共交通を利用しない理由としては、「自分で車を運転できる」とする町民が約7割いた。

通学について

通学先は仙台市内が一番多く、次いで丸森町内と角田市で同率。通学方法では、阿武隈急行線や町民バスなどの地域公共交通が利用されている。

現在の外出について

現在の外出を不便と感じていない人が多い傾向にあるが、10年後を考えると7割近くの町民は不便になると回答した。

地域公共交通に期待する改善策

「阿武隈急行線の運行と維持」と「あし丸くんの維持や改善」と回答した町民がそれぞれ5割。「町外への移動をより便利にしてほしい」という意向も多かった。

阿武隈急行線に期待する改善策

「町民バスやあし丸くんと接続の改善」が約5割となり、次いで「運賃の値下げや定期券の割引率の拡大」が約4割を占めた。

目指す地域公共交通の将来像を達成するための施策

本町の地域公共交通の現状や住民ニーズ、社会経済情勢等の変化、町の将来図、上位計画・関連計画におけるまちづくりの方向性などを踏まえて、丸森町の地域公共交通の課題を整理し、目指す地域公共交通の将来像と、それを実現するための基本方針および具体的な施策を設定しました。

地域公共交通の課題

課題1

地域公共交通の利便性向上と維持・確保

課題2

阿武隈急行線の利用者の増加と運行の継続

課題3

観光客等の多様な移動ニーズへの対応

課題4

住民への周知強化やDX推進による利用促進

目指す地域公共交通の将来像

町民の豊かな暮らしを支える
地域公共交通

基本方針

基本方針1

運行の効率化と連携強化による
持続可能な地域公共交通の実現

基本方針2

身近で利用しやすくなる
地域公共交通の実現

目指す地域公共交通の将来像を達成するための施策

施策1

阿武隈急行線の利用促進

- 事業1-1 阿武隈急行線の利用促進
- 事業1-2 阿武隈急行線の維持に対する補助の継続

施策2

デマンド交通あし丸くんの効率性と利便性の向上

- 事業2-1 デマンド交通あし丸くんの運行見直しによるAI オンデマンド運行の実現

施策3

町民バスの維持と改善

- 事業3-1 地域公共交通間の接続向上と利用実態に応じた運行見直し
- 事業3-2 各地域における多様な移動機会の創出
- 事業3-3 町民バスやデマンド交通あし丸くんの維持に対する補助の継続

施策4

わかりやすい情報提供による利用促進

- 事業4-1 地域公共交通の利用方法を記載した総合案内ツールの作成
- 事業4-2 阿武隈急行株式会社や観光事業者と連携した広域的な情報発信

施策5

地域公共交通の利用環境におけるDXの推進

- 事業5-1 運賃（料金）の支払方法の多様化
- 事業5-2 DXの導入による地域公共交通の更なる利便性の向上

